



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2550

〒320-0066 宇都宮市駒生1丁目1番6号 コンセーレ (栃木県青年会館)
 CONCERE 1-1-6 KOMANYU UTSUNOMIYA CITY TOCHIGI JAPAN 320-0066

(2014~2015) ROTARY CLUB OF UTSUNOMIYA SATSUKI

TEL 028-624-1417 FAX 028-624-1843 URL <http://www>.

宇都宮さつきロータリークラブ 会報

第 31 回 例 会

日 時:2015年3月9日(月)

19:00~20:00

会 場: コンセーレ

・開会 亀井 光一郎 副SAA

・点鐘 和知 孝道 会長

・ロータリーソング (奉仕の理想) 斉唱

・ビジター紹介 和知 孝道 会長

メイク 飯村 慎一直前ガバナー (宇都宮 90RC)、新見 徹 (宇都宮 90RC)

米野 俊次 (宇都宮 90RC)

・会長挨拶 和知 孝道 会長

3月12日(木)にはIM、そして4月11日(土)には社会奉仕活動の一環として、鬼怒グリーンパークの清掃活動及び親睦活動によるお花見と、この年度もいよいよ終盤になってまいりました。新たな年度にスムーズな引き継ぎができるよう、これからもしっかりと頑張っていきたいと思います。先週も言いましたが、当クラブは、何としても更なる会員増強をこれからの主眼と考えております。私の今年度の目標は9名増員して30名にすることでした。現在、1名増員でありますからどうぞ皆さん1名でも多くするために、しっかりと声掛けを宜しくお願いいたします。また、本日は郷昭裕さんに会員卓話をいただきます。とても楽しみにしております。それでは進行のほどよろしくをお願いいたします。

・幹事報告 三森 富雄 幹事

- 2月の出席率は87.5%、2月までの平均出席率が86.88%ですので比較的高い数字と言えます。先日の卓話で飯村パストガバナーからEクラブのメイクの話がありました。早速、石田朋靖会員からEクラブのメール体験談が皆様にもメールされたかと思えます。URLを拝見したら簡単に出来そうな感じがしましたので、他クラブへのメイクが難しい方は是非、Eクラブへのメイクを行って頂き出席率を90%以上に持っていただければと思いますので、ご協力お願いします。
- 3月12日(木)はIMとなっています。場所はホテルニューイタヤ、16:00受付です。各人の名札は一括して持参しますので、参加される方は宜しくお願い致します。
- 4月12日(日)東京あけぼのRCからチャーターナイトの案内が来ています。このクラブは、2014年12月にRIから認証を受けた新しい「新世代クラブ」です。創立会員22名のうち、15名が新世代プログラム(財団学友、ローターアクト、RYLA)の出身者、12名が女性とのことです。
- 東京あけぼのRC、4月20日(月)の宇都宮90RCとの合同例会、5月6日(水)のゴルフ大会の3行事の回覧をしますので回答できる方は出欠の回答をお願いします。

・委員会報告 各委員長

なし

LIGHT UP ROTARY

ロータリーに輝きを

・出席報告	石川 均 副会長
会員総数 22名 出席 18名 出席率 81.8%	

・スマイル報告	石川 均 副会長
---------	----------

- ・飯村 慎一 (宇都宮 90RC) 宇都宮 90RC 米野幹事、新見会長ノミニー、歓迎致します。
- ・新見 徹 (宇都宮 90RC) 初めてのメイキャップに伺いました。ロータリーは素晴らしい国際組織です。今後とも、宜しくお願い致します。
- ・和知 孝道 郷昭裕さん、会員卓話楽しみにしています。
- ・齊藤 昇吾 ロータリー財団学友会の仲間として郷昭裕さんのオランダの卓話を楽しみにしております。

・卓話 「経験を踏まえ社会奉仕に活かす」	郷 昭裕
----------------------	------

1 はじめに

皆さん、こんばんは。改めて自己紹介を兼ねて、これまでの経験から自分の思う事、考えなどをお話したいと思えます。私などが大それた事を言える立場ではございませんが、言葉遣いや表現など不適切な点はロータリー精神に乗っ取りご容赦ください。

戦後 70 年、今年は節目の年だといわれています。東日本大震災から 4 年目を迎えます。これまでも日本では 20 年前の阪神淡路大震災などの自然災害、地下鉄サリン事件など社会を揺るがす大きな出来事がありました。

しかし、今回の IS による日本人質殺害事件には大きな衝撃を受けました。これまでのように国内で起きた事件・事故は、いろいろと対応策がなされることですが、海外に及ぶとなると難しい問題です。今後いったいどうなっていくのだろうと思います。

先日、東京日比谷のギャラリーで「いのちの花」展というのが開催されていきました。後藤健二さんの作品も展示されているとのニュースを観て、行ってきました。日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET) という NPO 団体が主催するものです。2003 年のイラク戦争でアメリカ軍が使用した劣化ウラン弾の放射能が原因で小児がんになった子どもたちへの支援を行うために、医薬品を送り医療技術を指導する活動等をしているとのことでした。「イラクのがんの子どもたちが、本当の花を描きました」という作品やシリア難民、イラク避難民支援の活動状況などの写真やパネルなどが展示されていきました。また、つい 2、3 年前までは、歴史ある街並み、美しい田園風景だった場所、そこが廃墟となった写真を見比べ、現実を目の当たりにできるものでした。

私は、活動写真に写っていた女性スタッフに尋ねました。「なぜ危険な場所へ行くのですか？一般的には、私たち男性でも行こうとは思わない。女性なのに勇気がありますね。」

「今日はどのような情報でここへ来てくれたのですか？」「NHK ニュースを観て来ました。素晴らしい活動ですね。」「誰かがやらなければならないのです。悲惨さを伝えなければなりません。一緒にイラクに行きませんか？」そう言われても、私が支援できる事は、ハンカチ、アレppo の石鹼等、グッズを買うことぐらいです。JIM-NET では、「ふくしまとみんなをつなぐひまわりプロジェクト」も行っていきました。ひまわりの種をもらって来ましたので、夏には花を咲かせたいと思います。

2 行政の役割

私は、1964 年東京オリンピックの年、戦後 20 年目、東海道新幹線開業など高度成長期と言われる時代に生まれました。

1986 年大学卒業後、市役所に就職、28 年が経とうとしています。市役所に入った動機は、日本国憲法第 15 条にある「公務員は、すべて全体の奉仕者であって一部の奉仕者ではない」

という概念に魅力を感じたためです。社会は、それぞれ社会的役割や目的を持った人、職業、業界、研究者などが互いに連携、協力、努力して成り立っていくものだと思いますが、当時、私は自分の性格上、ひとつの分野に固執する自信がなくオールラウンド的な道を選びました。

市役所は、自分の意思に関わらずいろいろな場所に配属されます。私は、これまで福祉、税務、教育、防災、財政、広報などの仕事をしてきました。行政とは、地方自治法や地方公務員法という縛りの中、公共の福祉、市民のために様々な施策を展開し、より良い社会実現に向けた役割を担っているところです。そのような中、私は、行政として最も大切な事は、市民の生命・安全・財産を守ることだと思っています。

3 ロータリーとの出会い

2004年、私は総務課で防災に係わる仕事をしていました。当時は、全国が市町村合併に揺れている時代です。そのような折、鹿沼ロータリークラブから研究グループ交換プログラム（GSE）への派遣依頼が市役所にありました。行先は、オランダ。その頃、世は格闘技ブーム、格闘王国オランダ。アーネストホースト、ピーターアーツ、セームシュルト、アルバートクラウス、私の頭の中と心は、オランダへ行ってしまいました。（オランダ格闘技界の父ジョンブルミン 日本で極真空手を学びオランダに支部を作り多くの弟子を輩出した。オランダ人は、なぜ強いのか？道場へ行って闘いたい。強い人と闘いたい！）

「私、オランダへ行きたい。」「何を言ってるんだ。これから、合併準備室を作る大変な時に。一緒に合併の調整をするぞ」「募集年齢が40歳まで、後がない、一か月だけだから行かせてくれ、人生いろいろ経験した方が良い」

私は、合併に関するアンケート調査までやり、結局、総務課の皆さんに盛大に壮行会を開いてもらい、GSEメンバーとしてオランダへ派遣して頂きました。

4 オランダでの貴重な経験

オランダと日本は、古くから歴史的関わりがあります。1603年江戸幕府を開いた徳川家康は、鎖国政策をとり天下泰平の世を築いたわけですが、オランダとの交流は長崎県出島で続けられました。ヨーロッパの中でも突出した長い交流の歴史から、日本ではオランダの医学が早くから研究され、良好な経済関係も続いています。また、緊密な皇室・王室関係に象徴されるように伝統的に友好関係が維持、継続されています。今年、日光市で徳川家康公400年祭が開催されることは、脈々と続く歴史的ロマンを感じるところです。

オランダでは、現地ロータリアンの皆様から身に余るおもてなしをいただいた事を、今でも鮮明に覚えています。初めてのホームステイや外国企業などへの訪問、オランダの生活様式、歴史、文化、産業などを体感することができました。オランダ人は、船に乗り世界中に出て行きました。それは、貿易のためであり、またキリスト教の布教であり、イギリス、ポルトガル、スペイン等との競争だったと思います。日本は島国ですが、積極的に海外進出していく国民性と、特に栃木県のように海のない県民性との大きな違いを感じました。

（風車・水車、チューリップ、運河の整備、平坦な国土、自転車が発達、国土の3分の1は海面より低い、築100年以上の建築物に価値、地震がない、ステータスはクルージング、4週間のプログラム中、クラブ毎にウエルカムパーティ、さよならパーティ、ホストファミリー宅でのホームパーティ、日本の紹介プレゼンテーション、地区大会であいさつ等々のハードスケジュール

ゴッホ美術館、レンブラントの「夜警」、フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」、ベルギー・アントワープのノートルダム大聖堂で見たルーベンスの絵画) 思い出をあげたらきりがありません。これは、私にとって一生に一度の充実した経験です。

LIGHT UP ROTARY

ロータリーに輝きを

5 経験を踏まえ社会奉仕に活かす

私は、このような素晴らしい機会を提供してくれたロータリーに対し、感謝の気持ちを忘れません。そして、貴重な経験から10年、幸運にも財団学友も参加できる新しいロータリークラブ設立の機会にめぐり合うことができました。今後は、ロータリークラブの一会員として、奉仕活動を通じて様々な社会貢献をしていきたいと考えています。



2011年3月11日(金)の東日本大震災から4年目を迎え、今回の卓話では、被災地でのボランティア活動の体験談や被災地の人の声を通した「語り部」の重要性についてお話するつもりでしたが、時間の関係で次回としました。

戦後70年、戦争の記憶や震災の記憶などが、当時の人たちの高齢化や時の流れと共に「忘れられていく」ことが危惧されています。いま、たくさんの語り部から生の声を聴き、多くの人に伝えていくことが求められていると思います。

・点鐘

和知 孝道 会長

・閉会

亀井 光一郎 副SAA